

# 地域コミュニティ 活性化のための取組の提案と 活動事例

一般社団法人つくし青年会議所

## ■本報告書の目的について

本報告書は、地域コミュニティの活性化を目的に、団体や世代間での交流を通じて人と人との繋がりが生まれる活動を促進するための取組を提案するものとして作成しました。団体の方々が自らの地域課題に向き合い、今後取り組んでいただきたい内容を伝えるとともに、実例として私たちが行った「災害支援プロジェクト」と「つながる防災大作戦」の取り組みをご紹介します。本報告書を通じて、地域の多様な団体が社会的役割を理解し合い、互いの強みを活かしながら課題解決に向かうとともに、団体の持続性に寄与することを願っています。

## ■コミュニティの現状と課題について

現代の日本社会では、少子高齢化や核家族化の進行などにより、地域コミュニティの在り方が大きく変化しています。地域における人々の関係は、かつての密接で日常的なつながりが失われ、顔の見えない希薄なものとなりつつあるといわれています<sup>1)</sup>。特に若い世代を中心に地域活動に参画する機会が減少し、コミュニティ自体の持続可能性に課題が生じています<sup>1) 2)</sup>。

私たちは、この世代間ギャップが生じている点に着目しました。地域にあるコミュニティの世代が偏ってしまうと、多様性や機能が損なわれるといわれており<sup>1) 2)</sup>、さらに相互理解や地域への愛着が育たなくなるなどした結果、他の世代や転入者を新たな参画者とするのが困難となってしまいます。

また、こういった事象は自治会をはじめとする地縁の組織に多いといわれていますが<sup>1) 2)</sup>、ヒアリングを重ねていくと、ボランティア団体や特定の目的を持って活動する組織にも共通していることが分かりました。このようにして、多くの団体が後継者不足や活動の引き継ぎに悩んでおり、次世代の参画者が見つからないことが地域の継続的な発展を阻む要因となっています。



## ■コミュニティの課題に対する解決策

こうした課題に対して、筑紫地区の各行政や地域で活動している方へのヒアリングを通して「世代間交流」と「持続的な団体間の協力」により解決が可能ではないかと考えました。

世代間交流においては、現在の10代にあたるα世代の特性として、休日は親と過ごす傾向があるといった点が挙げられます。つまり、10代をターゲットにするイベントを行えば子育て世代にあたる親も一緒に参加することが期待できます。また、α世代は社会課題に関心を持っているという特徴もあります。

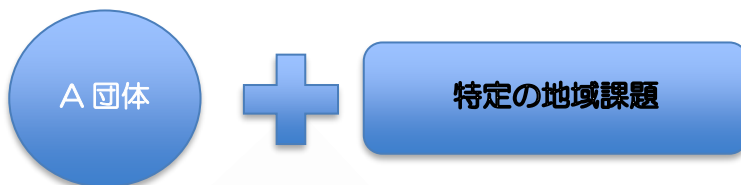
次に、持続的な団体間の協力においては、個別の団体が単独で活動を行うだけでは、限られた資源や専門性により、取り組む内容には限界があります。しかしながら、異なる目的や背景を持つ団体と連携することで、それぞれの強みを活かし、より新しいアイデアや取り組みが生まれる他、より多くの地域の方を巻き込んでいく可能性を秘めているものと考えています。ただし、連携する内容によっては協力して得られる成果に不均衡が生じる可能性があります。

これを少しでも解消するためには、普段行っている活動に地域課題の側面を加えることがポイントになります。既に地域課題に取り組んでいる場合は、それ以外の地域課題と自身の団体の活動にどのような繋がりがあるかを定義付けしていくことで、これまでに関わったことのない団体と繋がりを持つことが出来るようになります。

このように、持続的な協力関係を築くことで、地域課題の解決に向けた力強いネットワークが形成され、地域全体の活性化や持続可能性が強化されると考えています。

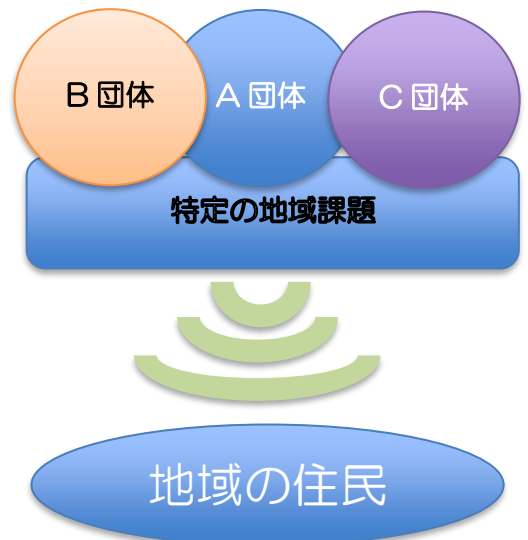
### (参考) 団体間の持続的な協力関係を構築するステップ

【ステップ1】 普段の活動に特定の地域課題を組み合わせた際に何が出来るかを考える



【ステップ2】 特定の地域課題に関心のある団体と手を組む

【ステップ3】 より多くの人が地域に参画するきっかけを作る



## ■モデル事業として行った取り組み事例の紹介

私たちは、どの世代にも共通する地域課題をテーマに、人と人、組織と組織が繋がる機会を創っていくことで、子育て世代を中心に地域への関心を寄せて参画する機会を提供することが出来るのではないかと考えました。そこで、地域課題として「防災」を選択し、モデル事業として結輪（ゆいまーる）と題し、「災害支援プロジェクト」と「つながる防災大作戦」の2つの事業を実施していくこととしました。

ゆいまーる

## ■結輪～災害支援プロジェクト～

この事業では、地域で既に活動されている様々な組織と一緒に、地域の防災の現状と実際に被災地ではどのような共助が発揮されているのかということ、また組織同士が連携するとどういった事前の取組が行えるかということをも2024年7月から9月にかけて、全3回のワークショップで実施していきました。

### 【参加いただいた団体】

春日市自治会連合会（昇町，宝町，松ヶ丘，紅葉ヶ丘，小倉，天神山，下白水北，泉，若葉台西）  
春日・大野城・那珂川消防組合消防本部 ぶどうの庭  
春日おやじネットワーク 筑紫医師会 徳洲会病院  
春日市社会福祉協議会 中学生（春日南中，春日中）



### 1. 第1回ワークショップ（令和6年7月13日）

避難所運営シミュレーション（HUS）を通じて、災害時の避難所運営の課題を確認しました。学校が避難所となった際の運営の主体が未定であることや、自治会の負担分散が難しい現状が指摘されました。講師には（一社）地域安全協会の山本一代表をお招きしました。



### 2. 第2回ワークショップ（令和6年8月10日）

西日本豪雨や能登半島地震の現状や共助が発揮された好事例などを学びました。また、付箋を使って参加者自身や組織の強みを書き上げて発表し合うことで、それぞれの組織の強みや所属している人の特徴を共有する機会となりました。



### 3. 第3回ワークショップ（令和6年9月29日）

模造紙を用いて、「今すぐできること」「時間がかかること」「単独でできること」「連携して実現すること」をマトリクスで分類し、現実的な防災の取り組みを検討しました。既存の活動に防災視点を加える「ながら防災」の考え方も学び、第2回と第3回では北九州市立大学の村江史年准教授を講師としてお迎えしました。



## 【参加いただいた外部団体の方からの意見】

- ・若い方を含めてこれだけの世代の違う人たちが集まって話し合える機会が出来たのは、とても良かった。他の地区での具体的な取り組みも知ることができた。
- ・避難所運営の勉強は以前もしたことがあるが、やる度に新しい気付きを得られる。また、同じような立場の人たちではなく、違う立場の人たちで出来たことが大変良かった。
- ・それぞれの団体がどのような想いでしているのかということ、今回初めて知ることができた。良い機会になった。
- ・この3回のワークショップは本当に良い機会になった。まず感じたのは、これだけ若い人たちが地域のことを考えて動いていることを知れたこと。そして、こうした人たちと繋がって色々話すことで新しい気付きや、その必要性に気づくことができた。

ゆいまーる

## ■結輪 ～つながる防災大作戦～

令和6年10月19日に行ったこの事業では、「ながら防災」の考えを活用し、おやじの会の子ども向け活動に「防災」を取り入れることで、子育て世代が地域に関わるきっかけを提供しました。また、防災の活動を既に行っている団体と協働することで、団体間の新たなつながりも構築しました。

### 【協力団体】

松ヶ丘地区自治会・天友会（天神山小学校区のおやじの会）  
ジェンダー平等ネット春日・春日市社会福祉協議会

## 1. 『ながら防災』の活用

特別な防災訓練ではなく、それぞれの団体が行っている事業に、地域課題となる防災の視点を加えました。特に今回は「おやじの会」の行っている子ども達を楽しませる活動に、防災の観点を加えて、親子で参加できる形とし、地域とのつながりのきっかけづくりを図りました。

## 2. 具体的な取り組み内容

### 1) SOSカードの作成

通学中など家族と離れている時に被災した際、SOSカードがあると、避難先で家族情報やアレルギー・服薬情報などが確認でき、迅速に家族と再会する助けになります。SOSカードには家族写真と避難時に必要な個人情報に記載されています。

表



裏

SOS たすけてカード		集合場所
Please help me!		
名前:	性別:	
生年月日: 年 月 日	血液型: 型 (RH )	
住所:		
電話番号:		
心や身体の情報 (障がい・アレルギー・常備薬情報等):		
【家族やサポートしてくれる親戚や友人】		
名前 (続柄)	学校や勤務先の住所・電話番号	
.		
.		
.		

## 2) 防災すごろく

「あがり」がないすごろくで、マスごとに3択問題があり、正解すると防災ポイントが得られます。制限時間内により多くのポイントを集めていきます。他の人が解いた問題も回ってくるため、繰り返し学習を通じて防災知識が身につく仕組みです。



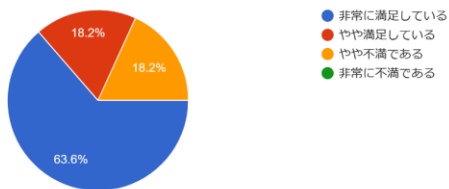
## 3) 防災チャンバラ

利き手にやわらかい剣と、反対の手に装着したマジックテープ付きボールを使って、親世代と子世代がチームで戦います。制限時間内に残った人数に応じてポイントが加算され、特に子どものポイントが高く設定されています。これにより、親世代は他の親と協力し、チーム全体で子どもを守りながら戦略的に進めることが求められます。

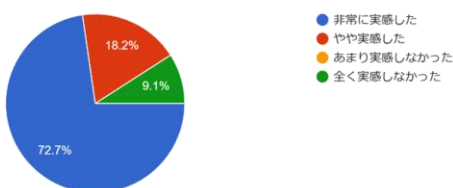


### 【協力団体アンケート】

今回のイベントに対する率直な感想を教えてください。  
11件の回答



複数の団体と協力をしてイベントを開催しましたが、団体が繋がっていくことの意義を実感しましたか？  
11件の回答



#### 【回答理由】

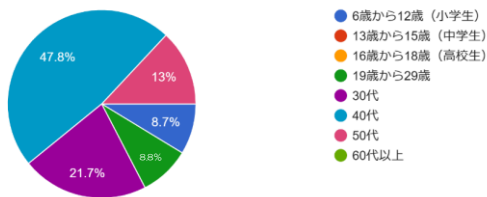
- JCの方たちのご協力があったからこそ、イベントに参加できました。ありがとうございました。実際にSOSカードづくりをしてみると、今まで見えてこなかった課題も見えてきて、大変有意義な時間となりました。家族でご参加の方も多く、若い方たちにも参加いただけてよかったです。
- 防災という地域課題を遊びながら学ぶことができ、また地域のつながりを深めるきっかけとなったと思います。
- 子ども達が楽しめる工夫が施されていた。
- 集客力とあそびの内容（にやや不満があった）

#### 【回答理由】

- 初めてご協力させていただきましたが、普段の活動ではいろいろな家族連れのお客様や男性の方も多かったので。
- 今まで、地域活動はしてきましたが、横のつながりがいまいちなく、もっと協働することで、地域の方たちに還元できると実感いたしました。さまざまな方とお話できる機会がありうれしかったです。
- 複数の地域の団体との横の繋がりは、何よりも大事なことだと思っています。しかし、当日それぞれの役割り場所に配置されただけで、交流の機会がほぼ無かったのが残念でした。
- 他団体と協働で開催することで新しい視点を持つことができたため。

## 【一般参加者からの意見】

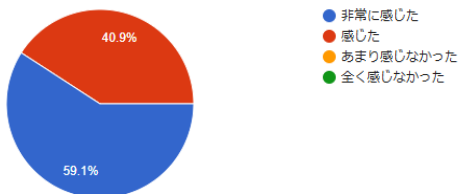
ご年齢を教えてください。  
23件の回答



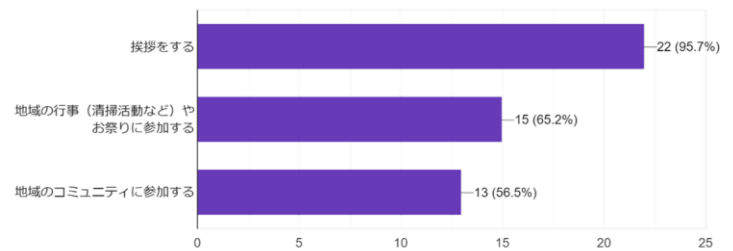
### 【参加しての意見】

- ・大変楽しく参加でき、人とのつながりの大事さを感じることができた
- ・子どもが楽しんでいて良いものだった。また開催してください。
- ・子供同士のつながりができました。
- ・楽しみながら学ぶことができました。ありがとうございました。

今回の事業を通して、地域の人のつながりが大事だと感じましたか？



地域の人のつながりを強めるために、あなたができそうなことにチェックしてください。  
23件の回答



全体の取り組みを通して、子育て世代の地域への参画意識の向上や、世代間・団体間の交流促進が叶いました。アンケート結果として、多くの参加者が地域のつながりの重要性を再認識し、異なる世代や団体との協力によって新たなネットワークが形成されました。さらに、参加者全員が今後も地域活動に参加したいという意欲を示しているため、地域においてこのような取り組みを実施することは、団体・地域住民の双方にとって有用であると考えます。

## ■まとめ

地域における世代や立場を超えた共助の仕組みを強化することを目指して、地域全体の防災力を高めることをテーマに取り組んできました。3回にわたるワークショップや各団体との協働による活動を通じて、日常の中で防災意識を自然に育む「ながら防災」の考え方や、組織同士が持続的に繋がっていく必要性について、多くの参加者に理解・共感されました。

この事業では、参加者同士の交流を通じて、地域に潜む課題を改めて認識し、具体的な解決策に向けた一歩を踏み出すことができました。特に、世代間の連携や異なる組織の協力を促進することで、災害時の共助体制を整備し、日頃から顔の見える関係を築くことができることが分かりました。協力いただいた各団体や地域の方々との新しいつながりは、今後の地域防災活動の継続・発展においても重要な財産となるでしょう。

また、今回は「防災」をテーマに地域の繋がりを促進する事業を行いました。地域課題をテーマに据えることで、より多くの住民が地域に関わるきっかけにもなります。そうすることで、団体に入ってくれる方が増えるなどして、組織の存続にも繋がっていくのではないのでしょうか。

最後に、本事業の実施にあたり、多大なるご協力をいただいた地域住民の皆様、協力団体の皆様に心より感謝申し上げます。この活動を通じて得られた経験やつながりを活かし、これからも安心・安全な地域づくりに邁進してまいります。

### 【参考文献】

- 1) 総務省,地域コミュニティの現状と問題(未定稿),2007
- 2) 地域コミュニティに関する研究会,地域コミュニティに関する研究会報告書,2022
- 3) 岩原廣彦ら,地域コミュニティの崩壊要因が地域防災力に及ぼす影響についての一考察,2020
- 4) (公財)ひょうご震災記念 21世紀研究機構,地域コミュニティの防災力向上に関する研究～インクルーシブな地域防災へ～研究調査報告書,2019
- 5) 消防庁国民保護・防災課,防災課,災害対応能力の維持向上のための地域コミュニティのあり方に関する検討会報告書,2009



## 青年会議所とは

青年会議所（Junior Chamber International, JCI）は、地域社会の改善とリーダーシップの向上を目指す若手のための団体です。青年会議所は、20歳から40歳までのメンバーで構成され、地域や社会に対してポジティブな変革をもたらす活動を行っています。教育、防災、地域振興など多岐にわたるプロジェクトを通じて、地域住民や行政、他の団体と協力し、明るい豊かな社会の実現に向けて行動しています。

## 国際的なつながり

青年会議所は122の国と地域にある国際組織であり、地域活動だけでなく、国際的な交流やグローバルな視点を取り入れたリーダー育成も行っています。日本では671の青年会議所と24,000人を超える会員がいます。

## 活動の多様性

インバウンドへの取組、防災、環境保護、地域経済の発展など、地域のニーズに応じた幅広い分野での活動を展開し、地域の方が安心して暮らせる環境づくりを支援しています。

## リーダーシップの育成

社会貢献活動を通じてリーダーシップや組織運営、問題解決能力を養い、教養ある健全な経営者として地域やビジネスのリーダーとしても成長していく機会を得ています。

## つくし青年会議所（つくしJC）

1972年に全国で521番目の青年会議所として設立。5市（筑紫野市、春日市、大野城市、那珂川市）およびその周辺に住所または勤務地がある満20歳以上40歳までの男女で構成されています。2021年に50周年を迎え、「新しい地域経済をデザインする」という運動方針のもと、「明るい豊かな社会」の実現のため、数々の地域貢献活動を行っている団体です。

### **【お問合せ先】**

一般社団法人つくし青年会議所

〒818-0058 筑紫野市湯町3-2-5 筑紫野市商工会館内  
TEL：092-924-8338 FAX：092-921-2906

HP：<https://tsukushi.or.jp/>

メールアドレス：[info@tsukushi.or.jp](mailto:info@tsukushi.or.jp)